

第16回ものづくり・技術教育研究会 (2009.10.31 於:名古屋大学教育学部)

発表資料

# ノルウェーで見て考えたこと 「ナイフ」にこだわって

松本達郎・横山悦生



# ノルウェー人が山歩きに携行するもの コップと(子どものリュックに)



# ナイフ

## 手をつなぐ父の腰に





# ガイドの腰にナイフ



ノルウェー中部の農家で  
お父さん、自慢のナイフ





# トナカイを解体する、骨を砕く、肉を切る等 それぞれの用途に応じたナイフ



# サーメ独特のデザイン さやの先の曲がった部分



# 芸術品に属するナイフ













# トナカイの角を使った芸術的価値の高いナイフ



# 幼稚園で出合ったナイフ





園舎の側の、柵で囲まれた広大な土地も幼稚園のもの  
そこにある小屋





動物、植物、野外活動の本や絵を描く道具などと共に



様々な道具の中にナイフもあった





# 林の木は遊び道具として活用されている









# 丸太の椅子や木をさしかけた屋根





ナイフを使って木を削っている(危なくないのか)  
先生が木を切りに行っている間子どもたちだけで





身体から遠ざけるようにナイフを動かして



皮をはいたり、先をとがらせたり





小学校訪問で出会ったナイフ7学年でナイフを作る  
左のナイフの刃部分は購入右のナイフは担任が作った



# 柄を取り付け、サックを作る材料道具





ノルウェー人にナイフを使って鉛筆を削ってもらおうと  
刃の向きが違う(果物の皮をむくように)



田舎で暮らす青年はナイフをどのように使ったのか





竹トンボを見せ、作ってもらった  
年配の人の鉛筆削りと同じ向きにナイフを動かす







ひごの場合も同じだった



表面を滑らかに仕上げる時だけは向きが違った





見事な飛びようだった

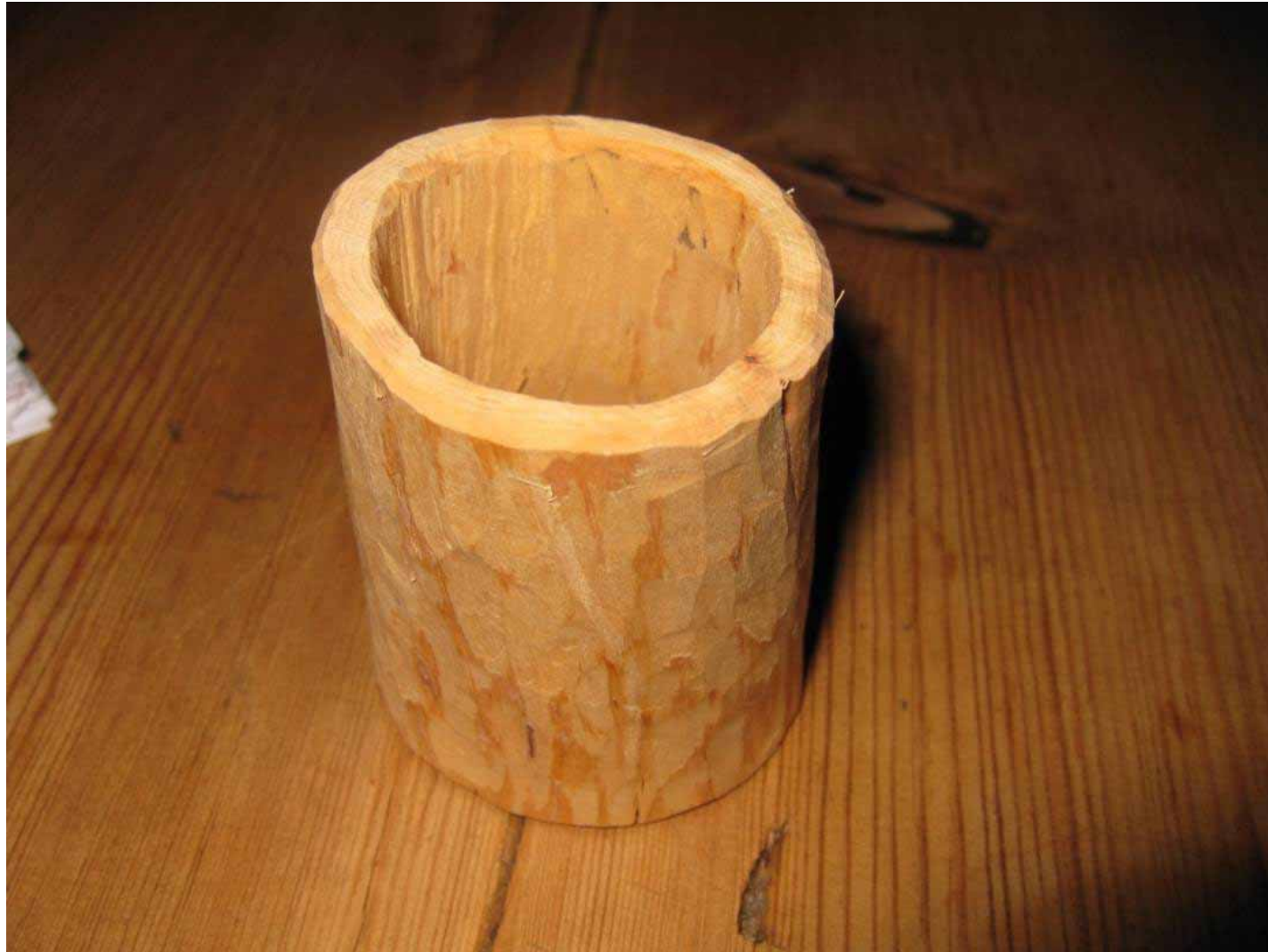


# 教員養成大学で使っているテキストには 両方の使い方が紹介されていた





## 青年が学生時代にナイフで作った作品(その1)



## その2





# その3



山歩きにナイフを持ち歩くノルウェー人が多い  
ナイフを自慢するノルウェー人が多い……………  
なぜ小学校でナイフ作りを取り入れているだろう





出会った子どもたちの様子から考えてみた  
南部中部を問わずブルーベリーがいたるところにあった



山歩きの途中、自分のリュックから取り出した道具で





# ブルーベリーを集めていた





小雨が降る中白樺の皮と枝で焚火を始めたが、  
なかなか火がつかず敷物のトナカイの皮であおいでいた





そのあと男の子があおいでいた









山のホテルで夜楽しく過ごしていた時突然バギッという音がして、巨漢のアメリカ人が床にひっくり返っていた



次の日壊れたイスの修理をホテルの親子でしていた





# 主導権を握っているのは12歳の子どもの方だ

家庭地域で大人のすることを見たり手伝ったりしている



# 小学校に





# 大人たちの家庭でのものづくり



# タイルを敷き詰めている家





# 糸を引いて石を並べている家



同じデザインのごみタンク置き場  
左の家には手作りのものと思えるものが





# 手作りと思われる柵



16時頃大きな音がするので行ってみると  
ブロック敷き詰め中の家からだった裏に回ると





敷き詰め作業中だった  
作業は業者ではなく、この家の主だった



大きな音はこの機械の音だったのだ





みごとに収まっている



住宅近くの林に子どもたちが作ったものが





ホームセンターに置かれてある材木の束  
1束の分量がとてつもなく多く、長さが不ぞろい



防腐剤を染み込ませて加工した材木  
長さがそろい、本数が少ないものもある





# 子ども用の自転車の修理は自分でする



## この青年の父が作ったボート





# この老人の作った暖炉



## 同じ老人の作ったランプシェード

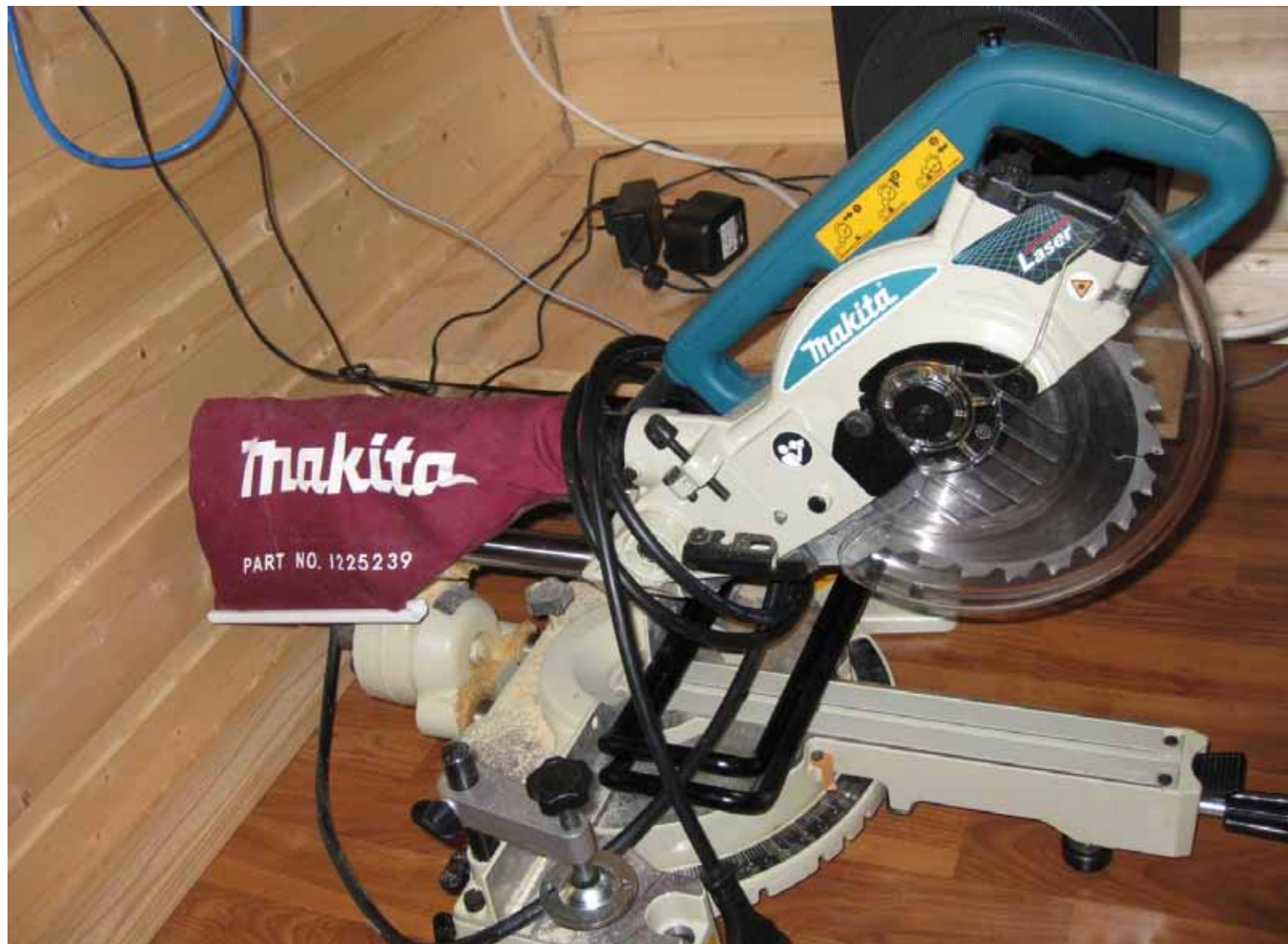




# 手作りの露天風呂 樽の中に 煙突と焚口のついたステンレスの箱が沈めてある



# 日本の機械が使われている





# 世話になった大学の先生の、趣味の作業場













## 感想

- ノルウェー人の多くがナイフに興味と関心を持ち、且つ野外活動には持参する人が多い。
- ・幼稚園で使用させている場合もある。
- ・小学校でナイフの刃に握り手と革のさやを作らせる学校がある。
- ・小学生が学校でナイフを使用するのは週1回ある野外学習の時間が多い。
- ・家庭で長期の休業中に自然の豊かな場所で過ごすことが多くそこで使用することがあると考えられる。
- ・家庭で、親がさまざまなものを作ることが多く、子どもはそれを見たり参加したりする機会が多い。
- ・勤務時間が守られ、余暇を活用することができるとともに、有給休暇を日本のように細切れに使うのではなく、長期の休暇として活用できるノルウェーでは、家庭生活にかかわった労働に従事する時間が十分にあり、作ることを楽しむとともにそこで様々な能力を発達させている。
- ・豊かな暮らしとはこうした暮らし方ではないだろうか。

## 豊かな自由時間は

- 長期的にみれば、例えば、人々の遊びを商品依存型の消費活動的な遊びから解放し、自然と人間の調和を前提とした自己確証的な遊びへと転換する…。
- 金銭を稼ぐ社会的な職業労働でない、自分のための衣食住の労働に携わるゆとりと意欲をもたらすだろう。家庭菜園や釣りや手芸等々によって、自分や家族の衣食住の一定部分を賄えるようになれば、過剰な商品依存型の生活スタイルから一步抜け出ることになるだろう。

尾関周二著 「言語的コミュニケーションと労働の弁証法」より



最後まで見ていただき、ありがとうございました

